§２　聖オディリアホーム乳児院

令和６年度　事業報告

1．事業概要

乳児院は児童福祉法37条に基づき、家庭で養育できない乳幼児を預かり養育し、あわせて退所したあとの相談その他援助を行うことを目的とする施設である。また、48条の２で地域の住民に対して、児童の養育に関する相談に応じ、助言を行うよう努める役割も求められている。

・乳児院　　定員60名
・地域子育て支援　・子どもショートステイ事業：宿泊による一時保育。
（定員：中野区２名　練馬区４名　板橋区２名　豊島区２名　北区１名）
・　地域子育て支援拠点事業：つどいの広場として施設の一室を地域の乳幼児親子に開放。
・　中野区病後児保育事業：病気の回復期にある乳幼児を日中預かる。
・里親支援事業（中野区）

２．施設運営

（１）児童数

①　初日在籍児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置	39 停止2	39	39	36	34	35	42	35	34	37	37	38
一時保護	4	4	5	4	5	7 （うち3歳1）	5 （うち3歳1）	11 （うち3歳3）	8 （うち3歳2）	6 （うち3歳4）	4 （うち3歳4）	6 （うち3歳4）
合計	43 (48)	43 (49)	44 (41)	40 (46)	39 (47)	42 (47)	41 (44)	46 (48)	42 (49)	43 (46)	41 (48)	44 (46)

＊(　)は昨年合計数

②　年間入退所数と理由

・入所数61名（令和５年度67名）
○　一時保護で入所してきた児40名、
○　はじめから措置で入所してきた児９名
・入所理由は、心理虐待（DVの目撃）が最も多い。他には母の精神疾患やネグレクトなど。

・退所数61名(令和５年度72名)
○家庭引き取り33名（うち家庭復帰４　司指導６　一時保護のまま23）
○児童養護施設へ施設変更７名　○里親委託６名(養育家庭４　特別養子2)
○その他３名（一時保護先変更２　停止１）

（２）職　員　⇒令和６年４月１日：101 名（内非常勤 16 名、産休育休含む）嘱託医３
101 名のうち産休・育休中の職員３名、育児短時間勤務者４名、夜勤免除者２名　妊婦２名

○ 令和６年度の入退職
【新規採用者　　８名（うち非常勤５名）
⇒保育士(常)２名　(非)3 名　相談員(常)1 名　看護師(非)1 名　用務(非)１名
【退職者　　9 名（うち非常勤 3 名)】
⇒保育士(常)4 名(非)１名　看護師(常)2 名(非)1 名　用務(非)１名

（３）児童処遇
〇暫定定員の見直し
令和６年度は、入所児童定員 60 名（暫定定員 58 名）での運営となった。
〇新たな取り組みとして、幼児一時保護受け入れ事業を実施。
都内の一時保護所のひっ迫状況から、ヘレナ室において３歳児限定ではあるが４名枠で７月より受け入れを開始した。
〇ユニット数変更
3 部屋体制の中で聖クララ室はヘレナを含む 3 ユニット、聖アンナ室も改修を行い３ユニット、聖ローザ室は２ユニット、計８ユニットで部屋運営を行った。
〇感染症の流行
新型コロナウイルスやインフルエンザに罹患した児はいなかったが、ヘルパンギーナ、ＲＳウイルス、アデノウイルス結膜炎、ノロウイルス、手足口病など、季節に関係なく流行り、毎月のように隔離している部屋があり入所の依頼があっても受け入れ時期の調整が必要なこともあった。
〇大型空調機の交換
令和 7 年 1 月から 2 月下旬までは懸念事項であった大型空調機の入れ替えを行った。工事が真冬の時期にかかってしまったためその間も入所を止める形になった。ただ入所中の子ども達にけがなどもなくスケジュール通りに交換ができた。

①　調理室
試作を重ね 12 月のクリスマスバイキングとクリスマスケーキは、在籍児全てのアレルギーに対応した献立にした。他にイベント献立実施後は、振り返りをしながらマニュアルや発注量の修正を行っている。

②　年長児保育（縦割り保育　ひまわり）
定員 4～5 名で実施。今年度は 3、4 歳児で入所期間が長い児が複数いたため少なめののべ 8 名の参加となった。地域との交流として、ひこばえ幼稚園の園庭開放に参加することが出来た。

③　行事
（３月 31 日：イースター　　５月５日：こどもの日　　７月７日：七夕（会食は５日）
１０月３１日：ハロウィン　　１２月２２日：冬至　　１２月２５日：クリスマス会
１月１日：正月　　２月３日：節分　　３月３日：ひな祭り）

保護者と子どものお楽しみ会はすいか割り（ローザ 8 月 13 日　アンナ 8 月 15 日　クララ 8 月 16 日）を実施した。10 月 21 日の地域ハロウィンには 31 人が参加した。退所児を招くオディリア会には（11 月 3 日　11 月 23 日）２７名（里子 11 名）の子どもたちが参加した。各室で、月齢に合わせてピクニックや遠足を計画し実施した。

④ 健康

個々の月齢にあわせ、嘱託医（順天堂練馬病院、Ｄｒ花岡）による健診と定期予防接種（近隣小児科）を行った。病虚弱児の申請と確認を行い病気や障害に合わせたケアが行えるように努めた。CPR シミュレーションも実施した。

（４）家庭支援、里親支援、心理

① 家庭養育推進事業としての取り組み

今年度も、支援会義を設定し施設内の治療的環境作りの調整を行った。（小児科医、作業療法士、臨床心理士の他、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、里親交流支援員、看護主任、部屋主任等出席）芦田先生には、6 月 5 日には「思春期早発症について」10 月 16 日には「アレルギーについて」の部屋の主任や担当職員も出席し、対象の児の病気についての講義をしていただいた。

② 家庭支援・里親支援

今年度から新たに 3 歳児の一時保護受け入れ事業を開始した。3 歳児の発達や子どもに対しての説明、面会対応等、事業を開始してから様々な確認事項や問題点があったが、居室職員や児童相談所と相談しながら行った。

また、今年度は里親交流支援員を配置せずに家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員が里親支援を行ったが、相談員３名体制では、きめ細やかな支援を継続することが難しく次年度の課題である。

③心理

心理療法は２ケース、発達検査は４件実施した。施設変更先の心理士や児童相談所と連携を取ることが増え、発達検査の結果や子どもの様子を共有することができた。

（５）研修・会議

職員会議、主任会議、支援会議、各室の運営に関わるミーティング、各室の児童の発達に関わるミーティング、委員会による会議のほか、各児童の月齢に合わせたケース会議など事業計画にもとづき実施した。

今年度も 1 年間かけて新職員育成プログラムを実施した。中堅職員については、人材育成プロジェクトの担当である基幹的職員を中心にマニュアル化をすすめ、５年目中堅職員が事前学習を行い、12 月 10 日に母子支援施設（さつき寮）を見学した。

①　院外研修

集合型の研修が増え、研修の種類、内容が広がり、キャリアパスを考えながら研修を組んでいった。

② 院内研修

・調理職員（栄養士）による部屋単位の研修

「離乳食について」 9月10日 「アレルギーについて」6月29日 11月8日

「アレルギーについて」11月30日 「調理保育について」10月17日

・心理士による地域支援担当職員の研修「保護者への対応について」令和７年１月21日

・相談員による事例検討グループディスカッション

「乳児院におけるライフストーリーワーク」10月7日

・施設見学会（児童養護施設清瀬子どもの家）5月15日 5月22日

・「個人情報の保護について」（小嶋弁護士） 6月5日

・「愛について」の講話（シスター間野） 10月11日 10月18日

・「麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の症状と治療、ワクチンの有効」について」

（順天堂練馬病院小児科医） 11月7日

・「フレンドホームについて」（聖友学園 里親支援専門相談員）11月29日

・「保育の中でできるベビーマッサージについて」（登録講師派遣事業：東京子ども専門学校講師） 令和７年２月８日

・里親体験発表会「里子からみた里親家庭での生活と乳児院職員に伝えたいこと」

（中野区里親家庭で暮らす里子）令和７年２月27日

（６）防災・防犯・安全

① 防災･防犯

各部屋、部署にて日常の生活を送る中での訓練を毎月 2 回実施した。調理室では災害を想定し冬季夕方以降の暗い中での調乳を行った。災害伝言ダイヤル訓練は９月と 1 月に実施した。新たに防災委員となった職員を中心に、区内の避難所マップの拠点となる場所の確認を行った。

③ 安全

毎月の委員会で各部屋の事故報告書、事故経過観察書、ヒヤリハットを報告し共有した。安全計画を作成し、主任会議の中でその月の注意する内容を確認している。

セコム鳴動訓練を7月11日に行った。

11月6日には野方警察署の方にきていただき防犯訓練を実施した。

（７）ボランティア・実習生

① ボランティア

〇つどいの広場

・おはなしぽん 月１回 （地域の絵本読み聞かせボランティア）

・おはなしだいすき 月１回 （ポプラ文庫の絵本の読み聞かせ）

有償ボランティア

・リトミック 月１回

・ベビーマッサージ 月１回

・歯科講習会 5月14日 9月10日

・助産師による抱っこの仕方 11月28日

○乳児院での活動
・散髪ボランティア　　不定期　12 月 5 日
・レインボーセブン（絵本、紙芝居、手遊びなど）月 1 階
・裁縫ボランティア　麦の会　毎月第４金曜日
・縫製ボランティア　　ひなたぼっこ　　不定期　年 3 回
・縫製ボランティア　つむぐソーイング　礼服・エプロン 200 枚依頼

②　実習生　（17 校を計画）
17 校（全 27 名）の実習生を受け入れた。
12 月 1 日には授業の一環として、子ども教育宝仙大学の教員 1 名と学生 8 名、施設見学のため来院した。

（８）工事・購入、環境整備

① 工事(修繕など)	エアコン交換工事	31,460,000
	給水ポンプ修繕	2,530,000
	ポスター掲示（あいりす）	2,145,000
	大型乾燥機	1,463,000
	調理室エアコン修繕	715,000
	屋上エアコン室外機修繕	660,000
② 助成金	給水ポンプ修繕	1,624,000
	大型乾燥機	1,000,000
	パルスオキシメーター	500,000
	雛人形	442,000
	2F 居室ロールスクリーン	390,000

（９）地域交流・地域支援事業
① つどいのひろば（週に 5 日開所）
食事タイムを再開したことで持参されたお弁当を食べながら利用者同士で交流する場面が見られるようになった。土曜日は父子の利用が多い。
8 月中夏祭り、10 月人形劇、起震車体験、12 月中クリスマスフェスタを実施した。
年間利用者数　子ども 2597 人　大人 2347 人　合計 4944 人（世帯数 2058 世帯）

② ショートステイ　（中野区２、練馬区４、板橋区２、豊島区２、北区１　合計 11 名）
５区合同会議　7 月 29 日と 3 月 3 日に実施
板橋区一時保護所への見学　9 月 5 日と 9 月 12 日

	ショートステイ				
	中野区	練馬区	板橋区	豊島区	北区

延べ人数 世帯数	126 名 108	411 名 229（要支援 1）	178 名 133	40 名 32（要支援２）	73 名 58（要支援０）

③　病後児保育（中野区から２名）

年間では 34 人（60 日）の利用。　感冒・感冒用症状の疾患が最も多い。

（１０）職員健診等

細菌検査、健診（やよい診療所他による）、インフルエンザ予防接種の実施。Ｄｒ花岡（産業医）に協力していただきストレスチェックを実施した。

（１１）里親支援事業（あいりす）

中野区から受託した里親支援事業については、大妻女子大学の山本真知子先生にスーパーバイザーを依頼した。10 月 12 日には野方区民ホールにて、養育体験発表会とパネルディスカッションを行い、72 名の参加があった。

制度説明会後には必ず個別相談の時間を設けた。個別相談会は ZOOM 開催のみとしたが参加者はいなかった。今年度は年間通じ電話で３件、メールで４件の個別相談があった。

研修やサロンの計画、駅の看板の掲示や、町会の回覧板や区内 130 か所のおしらせ版も活用し普及啓発を行った。掲示と回収は中野区障害福祉事業団に協力を依頼した。主任児童委員の協力を得て、夏を中心に様々な地域での地区祭りやイベント等で広報活動を行った。アンケートを実施する中で、区民の里親への認知度があがっていることがわかった。3 月 9 日には、ランナーを里親家庭から募り、里親３名、里子１名、あいりす関係者１名の５名でチームを組み、中野ランニングフェスタに参加した。

様々な関係機関との連携の中でこども教育宝仙大学にて里親制度についての出張授業を実施した。中央図書館とは合同で企画展示を行い、里親制度だけでなく「子どもの意見表明」に関するアンケートを実施した。

中野区が令和 7 年度よりフォスタリング事業を開始するということで、受託の為の準備をすすめたが受託には至らなかった。区内の里親家庭からは、残念に思うとの声もあり、体制が変わることで不安にならないよう次の受託先とも細かく引継ぎを行った。また、中野区里親支援事業としては終了となるが、乳児院としての里親支援は続くため、どのような形であればつながり続け、里親家庭が安心して暮らしていけるか、7 年度以降も引き続きフォスタリング機関にも相談しながら検討しできることを実施していきたいと考えている。

（１２）その他

① 第三者評価

福祉サービス第三者評価受審は特定非営利活動法人メイアイヘルプユーに依頼した。

評価結果は別紙報告事項の通りである。

② 苦情解決

3 月５日に第三者委員報告会（苦情解決委員会から名称変更）をおこなった。小嶋弁護士、荒船評議員、志場評議員、栗原評議員に来ていただき、保護者からの要望、事故報告書やヒヤリハット報告書の確認と対応についてのアドバイスをいただいた。

③ その他

中野区による実施検査

部屋の都合上、令和７年１月 10 日と令和７年１月 23 日の９時３０分より、2 回に分けて実施され、会計で 2 件の文書指摘があった。